

個別事業(取組)評価

事業No.	51	施策の柱への位置付け	柱⑩ 高校教育の推進	
事業名称	21ハイスクールプラン推進事業		担当課	高等学校課
			当初予算額(千円)	38,000
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	33,555

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 ◆ 各県立高校では、生徒一人ひとりの個性や学校・地域の特性を生かした自主的な取組を行っているが、少子化や通学区の撤廃でその必要性は高まっている。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 入学者選抜状況の調査を実施し、志願状況等を把握している。 ◆ 学校訪問を行い、各高校の状況について調査している。
		【要因】 ◆ 中学生や地域への教育活動の情報発信や地域との交流が十分でない。 ◆ 高校生のスキルアップ等の中学生や保護者に分かりやすい取組が十分でない。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 昨年度まで学校の外部評価や開かれた学校づくり推進委員会など外部からの評価を得ている。 ◆ 学校や就職対策連絡協議会との連携を密にした。
②	目標(Outcome)	◆ 各高等学校の特色を生かした取組を支援し、生徒の学習活動の活性化やスキルアップのために、次の4つの目標を設定する。 ① 各高等学校の学校評価の項目における評価Cの割合を減少させる。(平成22年度:7.5%→10%未満にする。) ② 各高等学校の学校関係者評価における評価Aの割合を向上させる。(平成22年度:25.4%→20%以上にする。) ③ 生徒の資格の取得率を向上させる。(平成22年度は67.3%→取得率を50%以上にする。) ④ 特に地域性の高い室戸、嶺北、橿原、窪川、四万十、清水の各高等学校の地元の市町村又は連携中学校からの進学率を向上させる。(平成22年度:52.5%→5校の平均値について50.0%程度を維持する。)	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 各高校の特色づくりの推進を図り、情報発信や地域との交流をすることで生徒や保護者、地域の人の満足度を高めることはできる。 ◆ 資格取得により、生徒の就職への意識を向上させることで学校の特色化を図ることができる。
		【検証(比較)方法】 ◆ 学校評価・学校関係者評価 ◆ 生徒の資格取得率 ◆ 生徒の進学状況調査	エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ① 各高等学校の学校評価の項目における評価Cの割合は4.0%で昨年度より3.5ポイントの減となり、10%未満にすることができた。 ② 各高等学校の学校関係者評価における評価Aの割合は36.3%と昨年度より10.9ポイントの増となり、20%以上にすることができた。高校のきめ細かい指導により、高校生活への満足度は高くなっている。 ③ 平成23年度の生徒の資格の取得率は、55.0%であり、目標地は達成した。また、資格取得を希望する生徒が、15,694名と昨年度より2,322名増加し、生徒の学習意欲が向上した。 ④ 特に地域性の高い室戸、嶺北、橿原、窪川、四万十、清水の各高等学校の地元の市町村又は連携中学校からの進学率は、48.7%で目標値を維持することができた。
③	実施内容(Input・Output)	◆ ものづくり、資格取得の推進 ◆ 地域でのボランティア活動の実施 ◆ 伝統文化の伝承活動の実施 ◆ 海外交流事業の実施 ◆ 実習販売市の開催 ◆ 学校広報誌の発行 等 ◆ キャリア教育の充実	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 各学校で年間行事予定に沿って実施されている。8月末までの実施状況は次のとおりである。 ◆ ものづくり、資格取得の推進 高知工業、桜ヶ丘、城山、須崎工業、宿毛工業など15校 ◆ 地域でのボランティア活動の実施 安芸、室戸、高知農、須崎、大方、大月など7校 ◆ 伝統文化の伝承活動の実施 吾北、西土佐、春野、橿原の4校 ◆ 海外交流事業の実施 高知西、高知南、伊野商、小津、中村、山田の6校 ◆ 実習販売市の開催 高知農業、幡多農業の2校 ◆ 学校広報誌の発行 等 嶺北、高岡、須崎、中村など18校 ◆ キャリア教育の充実 伊野商、大方、岡豊、窪川、中芸、南など21校
		目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	【今後の方向】 ◆ 本事業は、学校独自の教育活動を支援するとともに、学校教育を推進していくうえで必須の事業であり、より特色を発揮する内容の充実が図れるよう見直していく必要がある。 ◆ 平成26年度からの再編振興計画実施に向けて、各学校の教育活動をさらに充実させ、特色ある学校づくりを推進する必要がある。 ◆ 学校評価及び学校関係者評価は、両者の評価にずれがほとんどないことから今後の学校の取組の改善に積極的に活用していく。 ◆ 学校の特色化を図るうえで、地域性の高い高等学校に限らず、すべての高等学校で地元の中学生や保護者、住民から信頼される学校づくりを推進し、地元からの進学率の向上につなげていくことが必要である。
総合評価と今後の方向		【総合評価】 ◆ 各学校でそれぞれの特色を生かした取組が進んでおり、学校評価及び学校関係者評価の結果にも現れてきている。 ◆ 生徒の資格取得のための補習等の取組は、各学校で熱心に取り組んだが、取得率は昨年度より下がった。しかし、一定のレベルを維持することはできた。 ◆ 特に地域性の高い室戸、嶺北、橿原、窪川、四万十、清水の各高等学校の地元の市町村又は連携中学校からの進学率は、目標値は維持できたが、昨年度よりは下がったが、地域の中学校の生徒数の減少の影響が大きいと考える。	